

東日本大震災 復興への祈りとあゆみ

震災タスクフォース福島訪問

12月20日、WCRP日本委員会震災タスクフォースの根本信博師（立正佼成会外務部長）、前島宗甫師（元日本キリスト教協議会総幹事）、黒住宗道師（黒住教副教主）は、福島県への支援を具体化するために、福島県のうつくしまNPOネットワーク、会津元気玉プロジェクト、社団法人福島連携復興センター、南相馬市社会福祉協議会、特定非営利活動法人フロンティア南相馬を訪問。福島県における震災後の復興状況や課題について聞き取りを行った。

各団体から長期間にわたる避難生活の問題点や孤独状況から生じる精神的苦痛、放射能による子どもの発育問題、親や妊産婦の不安などについて具体的な事例が伝えられた。特に、雇用創出は喫緊の課題である。

仕事を失った人の中には必要以上にアルコールやパチンコなどに熱中している男性もおり、中にはそうした男性によるドメスティック・バイオレンスが発生しているケースがあるとのことである。また、放射

能によって外で遊べない子どものケアの必要性も指摘された。遠足やスポーツ行事など、子どもが集い、体を動かす取り組みも大事である。コミュニティ再構築も大きな課題であり、離れ離れになった地域や家族の絆を保つための情報共有スペースのあり方や仮設住宅における住民自治の問題点についても語られた。被災者が孤独に陥らないために、どのようにつながりを構築するか、住民間や他県の方々との交流事業の必要性もあげられた。さらに、被災地の経済再生に関して、被災者の雇用創出につながる産業支援のあり方について、地元の特産物をいかに幅広く流通させるかという課題も浮かび上がっている。このような課題を克服するために、WCRP日本委員会は、現地における心のケアに関する事業やボランティア派遣などの取り組みを長期的に実施していく予定である。

岩手県大槌町における取り組み

岩手県大槌町では、特定非営利活動法人アマダと連携した復興活動を開始した。仮設住宅に住む方々や地元の宗教者、町内会の住民と話し合い、心のケアにつながる



大槌町での茶会の様子

様々な取り組みを行って

る。
話し合いの
中で、茶会や
手芸、健康・
運動教室、野
菜菜園、青少
年交流などの

取り組みが必要であることが語られた。また、震災体験を共有し、後世に教訓を残すための編纂プロジェクトや宗教者による講演なども、将来のための重要な事業であると述べられた。

現在、WCRP日本委員会は、大槌町で茶会プロジェクトを実施しているが、先に述べた現地からのニーズにも具体的に取り組み予定である。

WCRP震災復興キャンペーン2012

WCRP日本委員会は、1月27日に開催された第119回理事会・第113回評議員会で、本年3月～5月に「WCRP震災復興キャンペーン2012」を実施することを決めた。次ページに概要を掲載。